

田中敦子

未知の美の探求 1954 2000

主催：静岡県立美術館 / 田中敦子展実行委員会 / 財団法人地域創造
 協賛：J R 東海
 会期：2001年7月28日(土)～9月9日(日)
 開館時間：9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)
 夜間開館：5月から9月までの毎週土曜日は午後7時30分閉館(入館は7時まで)
 休館日：毎週月曜日(祝日・振替休日の場合は開館し、翌日休館)
 入場料：一般・大学生 800円(600円) / 小・中・高生 400円(300円) / 70歳以上無料
 * () 内は前売・団体料金



ポスター



カタログ

田中敦子(1932-)は、戦後日本美術史において重要な位置を占める具体美術協会の主要なメンバーとして広く知られている。「誰もやらなかったことで面白いこと」を常に模索してきた田中は、数字をモチーフにした作品や、音や電気を使った作品を次々と発表し、その斬新さは海外で高く評価されていった。その後、円と線による独自の絵画スタイルを確立し、戦後美術を検証する国内外の展覧会において欠くことのできない存在となった。

本展は、田中敦子のほぼ半世紀にわたる活動を浮き彫りにした、日本の公立美術館では初の本格的な回顧展である。出品作品は、画歴の最初期から最新作までを含むタブロー約80点、素描や習作類約70点、映像資料に加えて、具体美術協会時代に野外で展示された大型作品の再制作までも含む、計150点余りの幅広い作品群によって、田中の活動を包括的に紹介し、その魅力の多角的な検証を試みた。

なお、本展を軸として現代美術の普及をはかるため、複数の関連イベントを実施した。詳細は、「関連イベント」を参照されたい。

カタログ

29.5×22.5cm 224頁

加藤瑞穂「境界の探索」

フランソワーズ・ルヴァイアン「1950年代の日本における田中敦子の電気服」

- 図版 1. 1954-1957年
 2. 1958-1965年
 3. 1965-1980年
 4. 1980-2000年

南 美幸「不在のメッセージ 《作品(ベル)》への一考察」

文献再録

作品目録

年譜

文献目録

出品目録

関連イベント

* 再制作作品の展示および公開インスタレーション
 以下の4作品は、1950年代半ばに具体美術境界関連の展覧会に出品された大型作品で、本展に合わせて再制作され、期間限定で展示した。と に関しては、野外でのインスタレーションの模様を公開した。

《舞台服》

7月28日(土)～8月16日(木)、美術館正面階段《アマリス》横に展示

《作品 (ピンクの人絹)》

全会期中、晴天の土・日曜日および県民の日に、県民ギャラリー・テラス前に展示

《作品 (十字架)》

8月17日(金)～9月9日(日)、正面玄関に展示

《作品 (ベル)》

全会期中、エントランス階段に展示

* 連続アート・フォーラム

本展から導き出された現代美術をめぐる4つのテーマで計4回、おひとりずつ講師を迎え、アート・フォーラムを開催した。4つのテーマとは、田中敦子の作品世界そのものに加え、作家と活躍する土地(国)の関係性、大人と子どもの美術の相違の有無、芸術における色彩の意味などであり、これらは田中作品の基本的要素を中心に設定されたものである。

またこのフォーラムは、現代美術に関する様々な問題について、講師と参加者が積極的に議論し、交流する「開かれた場」とすることを目指した。各フォーラムの講師への質問・疑問を開催前からホームページでも受け付け、当日会場で講師からご回答いただいた。参加者は、各日によって数の多少はあったものの、普段現代美術にあまり接触したことがないながらも、全てのフォーラムに参加いただいた方もいた。なお、本展終了後も各講師への質問が当館宛てに寄せられることもあり、普及の効果の一端を推し測ることができる。

第1回 中津川浩章氏(美術家)

「日本の現代美術 東と西」

8月5日(日) 14:00～16:00 講座室

第2回 田中敦子氏「田中敦子・自作を語る」

8月19日(日) 14:00～15:30 講堂

第3回 倉科勇三氏(芦屋市立美術博物館)

「大人の美術のはなし。ワークショップのココロみ」

8月26日(日) 14:00～16:00 講座室

第4回 奥村鞞正氏(グラフィック・デザイナー)

「多様な色の意味について」

9月2日(日) 14:00～15:30 講堂

* 子どもワークショップ「^{美、微、っ}ビビッと感じて、じっくり描こう」

本展に関連したテーマを設定し、制作・鑑賞の両面からアプローチする、小学生対象のワークショップを

開催した。田中敦子氏の作品世界を「運動=エネルギーの表現」と捉え、動き/エネルギー(生命力)やその伝導を物理的に体験するオリエンテーション(ビビッと感じる部分)と、それを描く行為に置き換える技術を身につける実技(じっくり描く部分)を並行して行なった。ワークシートを使い、からだ全体で展覧会を鑑賞したり、人体の動きや自然の形・色などの観察による視覚的な心理体験を重ねつつ、最後に、円と線のモチーフによって参加者全員による作品制作に挑んだ。

タイトルの前半にある「ビビッと感じて」は、田中の《電気服》からヒントを得たもので、後半の制作「じっくり描こう」に向けた入念なレッスンとも言えるが、後者が完成目標としてあるのではなく、自己を表現するための動機とツール探し、いわばプロセスを重視した内容となった。

7月31日(火)～8月5日(日) 実技室および講座室

講師:新田あけみ氏(造型作家)

内山久子氏(当館自由工房インストラクター)

脇田千晶氏(当館チーフインストラクター)

参加者:小学生41名

* ギャラリー・ツアー

当館では、有志のボランティアによるギャラリー・トークを実施している。本展では、この輪を広げるため、展覧会と鑑賞者との掛け橋となるギャラリー・ツアーのガイドを、ボランティアと美術館外部の双方から募集した。ボランティア8名に加えて、ホームページや印刷物等で広報を行なった結果、館外部から17名の申し込みがあり、計25名のツアー・ガイドが誕生した。8つのグループに分かれたツアー・ガイドは、会期前から複数回の勉強会を行い、ギャラリー・ツアーに臨んだ。アンケートを実施したところ、これらのツアーは概ね好評であり、今後も継続されたいとの希望が多かった。またガイドを務めてくれた方々からも、美術館との距離が縮んだとの声が多く聞かれた。

実施日:8月4日(土)、5日(日)、12日(日)、

18日(土)、19日(日)、26日(日)、

9月1日(土)、2日(日)、9日(日)

14時～(45分から1時間程度)、展示室その他

出品目録

	作品名	制作年	材質	寸法 タテ×ヨコ (×高さ)、cm	所蔵
1	カレンダー	1954年頃	インク・鉛筆、紙、コラージュ	38.0,54.0	芦屋市立美術博物館
2	カレンダー	1954年頃	油彩、インク、紙、コラージュ	54.0,38.0	芦屋市立美術博物館
3	作品	1954年頃	インク、接着剤、芯地	21.0,46.0	芦屋市立美術博物館
4	作品	1954年頃	インク、接着剤、芯地	35.3,53.0	奈良県立美術館
5	作品(6)	1955年	インク、クレヨン、綿布	81.7,62.3	東京都現代美術館
6	作品	1955年	木綿	100.0,208.0	作家
7	作品	1955年	木綿	100.0,202.0	作家
8	作品	1955年	木綿	101.0,377.0	作家
9	無題	1956年	油彩、紙	73.0,91.0	芦屋市立美術博物館
10	無題	1956年	油彩、紙	73.0,91.0	芦屋市立美術博物館
11	無題	1956年	油彩、紙	73.0,91.0	芦屋市立美術博物館
12	作品	1956年	人絹	100,110,52	作家
13	電気服	1956年(1986年再制作)	管球、電球、合成樹脂エナメル塗料、コード、制御盤	165.0,80.0,80.0	高松市美術館
14	作品	1957年	油性インク、水性インク、紙	110.0,77.0	兵庫県立近代美術館
15	作品	1957年	油性インク、水性インク、合成樹脂エナメル塗料、紙	109.8,79.3	芦屋市立美術博物館
16	作品	1957年	油性インク、油彩、紙	109.8,79.3	芦屋市立美術博物館
17	作品	1957年	油性インク、油彩、合成樹脂エナメル塗料、紙	109.8,79.3	芦屋市立美術博物館
18	作品	1957年	油性インク、油彩、合成樹脂エナメル塗料、紙	109.8,79.3	芦屋市立美術博物館
19	作品	1957年	油彩、合成樹脂エナメル塗料、合板	130.0,92.0	奈良県立美術館
20	作品	1958年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	224.5,184.0	兵庫県立近代美術館
21	作品	1958年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	220.2,184.8	広島市現代美術館
22	作品	1958年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	164.0,132.0	兵庫県立近代美術館
23	作品 1	1959-60年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	223.0,178.9	福岡市美術館
24	作品	1960年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	118.5,95.0	芦屋市立美術博物館
25	作品	1961年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	180.0,380.0	大阪市立近代美術館建設準備室
26	作品	1961年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	161.5,130.0	兵庫県立近代美術館
27	Work	1961年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	162.0,130.0	Gallery HAM
28	作品	1961年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	130.0,89.6	兵庫県立近代美術館
29	'61赤と黒	1961年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	176.0,130.0	和歌山県立近代美術館
30	黒い三ツ玉	1962年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	194.8,139.8	滋賀県立近代美術館
31	金のWork A	1962年	合成樹脂エナメル塗料、メタリック・パウダー、キャンヴァス	162.0,132.0	千葉市美術館
32	金のWork B	1962年	合成樹脂エナメル塗料、メタリック・パウダー、キャンヴァス	121.6,122.0	ギャラリーたかぎ / 白石コンテンポラリーアート
33	作品	1962年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	220.0,350.0	高松市美術館
34	Work 1962	1962年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	163.7,130.0	北九州市立美術館
35	作品	1962年	合成樹脂エナメル塗料、合板	129.3,91.0	個人
36	作品	1962年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	129.0,88.5	個人

	作品名	制作年	材質	寸法 (タテ×ヨコ、cm)	所蔵
37	Work '63	1963年	合成樹脂エナメル塗料、合板	193.5,122.5	京都国立近代美術館
38	作品 (たが)	1963年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	194.0,131.5	東京都現代美術館
39	作品	1963年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	194,130	(財)駒形十吉記念美術館
40	作品	1963年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	200.0,332.0	芦屋市立美術博物館
41	Thanks,Sam	1963年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	225.0,193.0	千葉市美術館
42	作品	1963年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	145.5,113.0	個人
43	WORK 1963A	1963年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	294.0,200.0	宮城県美術館
44	Work 1963B	1963年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	162.2,133.5	個人
45	WORK 1964	1964年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	195.8,131.8	宮城県美術館
46	三ツ玉のコンポーズ	1964年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	130.5,97.0	(財)喜多美術館
47	青	1965年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	194.8,129.8	滋賀県立近代美術館
48	作品	1965年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	53.0,45.8	個人
49	作品	1965年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	53.0,45.5	個人
50	地獄門	1965-69年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	331.5,245.5	国立国際美術館
51	Spring 1966	1966年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス、合板、モーター	直径161.3	芦屋市立美術博物館
52	作品	1966年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	101.2,81.7	作家
53	67	1967年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス、合板	直径183.7	ふくやま美術館
54	作品	1967年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	131.0,97.0	作家
55	Work 1968	1968年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス、合板、モーター	直径194.0	福島県立美術館
56	作品	1968年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	100.2,80.3	Gallery HAM
57	'71S	1971年	合成樹脂エナメル塗料、帆布	185.5,148.0	個人
58	'72E	1972年	合成樹脂エナメル塗料、帆布	184.5,146.5	宇都宮美術館
59	1972G	1972年	合成樹脂エナメル塗料、帆布	106.0,87.8	個人
60	'78B	1978年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	182.0,227.5	京都国立近代美術館
61	'81G	1981年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	194.0,130.0	作家
62	1985A	1985年	合成樹脂エナメル塗料、綿布	218.5,333.3	静岡県立美術館
63	'86A	1986年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	112.1,145.5	個人
64	'86G	1986年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	218.0,333.0	作家
65	'87H	1987年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	193.7,257.5	芦屋市立美術博物館
66	Work '91A	1991年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	直径200.0	芦屋市立美術博物館
67	WORK '91G	1991年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	直径200.0	和歌山県立近代美術館
68	'93D	1993年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	145.7,112.2	作家
69	'93G	1993年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	192.0,192.3	作家
70	'94B	1994年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	300.0,510.0	作家
71	'95A	1995年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	193.7,280.0	作家
72	'99I	1999-2000年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	188.5,130.5	作家

作品名	制作年	材質	寸法 (タテ×ヨコ、cm)	所蔵
73 2000D	2000年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	145.0,97.0	作家
74 2000 G	2000年	合成樹脂エナメル塗料、キャンヴァス	162.1,130.3	作家
【素描】				
75 「電気服」のための素描	1956年	クレヨン、紙	108.6,76.0	作家
76 素描	1956年	クレヨン、水性インク、水彩、紙	110.0,77.0	兵庫県立近代美術館
77 素描	1956年	クレヨン、水性インク、鉛筆、紙	110.0,77.0	兵庫県立近代美術館
78 素描	1956年	クレヨン、水性インク、水彩、紙	110.0,77.0	兵庫県立近代美術館
79 素描	1956年	クレヨン、水性インク、紙	110.0,77.0	兵庫県立近代美術館
80 素描	1956年	クレヨン、油性インク、水性インク、紙	110.0,77.0	兵庫県立近代美術館
81 素描	1956年	クレヨン、水性インク、水彩、紙	110.0,77.0	兵庫県立近代美術館
82 素描	1956年	クレヨン、紙	110.0,77.0	兵庫県立近代美術館
83 無題 (1)	1956年	クレヨン、紙	110.0,77.0	大阪市立近代美術館建設準備室
84 無題 (2)	1956年	クレヨン、紙	110.0,77.0	大阪市立近代美術館建設準備室
85 無題 (3)	1956年	クレヨン、紙	110.0,77.0	大阪市立近代美術館建設準備室
86 無題 (4)	1956年	クレヨン、紙	110.0,77.0	大阪市立近代美術館建設準備室
87 無題 (5)	1956年	クレヨン、水性インク、紙	110.0,77.0	大阪市立近代美術館建設準備室
88 無題 (6)	1956年	クレヨン、紙	110.0,77.0	大阪市立近代美術館建設準備室
89 無題 (7)	1956年	クレヨン、紙	110.0,77.0	大阪市立近代美術館建設準備室
90 無題 (8)	1956年	クレヨン、紙	110.0,77.0	大阪市立近代美術館建設準備室
91 無題 (9)	1956年	クレヨン、水彩、紙	110.0,77.0	大阪市立近代美術館建設準備室
92 無題 (10)	1956年	クレヨン、紙	110.0,77.0	大阪市立近代美術館建設準備室
93 「電気服」のための素描	1956年	クレヨン、油性インク、水性インク、紙	109.0,77.0	Gallery HAM
94 「電気服」のための素描	1956年	水性インク、クレヨン、水彩、紙	109.0,77.0	Gallery HAM
95 「電気服」のための素描	1956年	水性インク、クレヨン、紙	77.0,55.0	作家
96 「電気服」のための素描	1956年	水性インク、紙	76.9,54.7	作家
97 「電気服」のための素描	1956年	水性インク、紙	70.5,54.3	作家
98 「電気服」のための素描	1956年	水性インク、紙	76.8,54.5	作家
99 「電気服」のための素描	1956年	クレヨン、紙	76.9,54.3	作家
100 「電気服」のための素描	1956年	水性インク、クレヨン、色鉛筆、紙	76.9,54.6	作家
101 素描	1956年	クレヨン、水彩、紙	77.2,56.0	兵庫県立近代美術館
102 素描	1956年	クレヨン、水彩、紙	78.0,56.0	兵庫県立近代美術館
103 素描	1956年	クレヨン、水彩、紙	78.0,56.0	兵庫県立近代美術館
104 素描	1956年	クレヨン、水彩、紙	78.0,56.0	兵庫県立近代美術館
105 素描	1956年	クレヨン、水彩、紙	78.0,56.0	兵庫県立近代美術館
106 素描	1956年	クレヨン、水性インク、水彩、紙	99.0,109.0	兵庫県立近代美術館
107 素描	1956年	水性インク、水彩、紙	159.0,109.0	兵庫県立近代美術館

作品名	制作年	材質	寸法 (タテ×ヨコ、cm)	所蔵
108 「電気服」のための素描	1956年	墨、クレヨン、インク、色鉛筆、紙	76.8,54.6	ドイツ証券会社東京支店
109 「電気服」のための素描	1956年	クレヨン、紙	76.8,54.5	ドイツ証券会社東京支店
110 1975-D1	1975年	グアッシュ、紙	79.0,56.0	個人
111 1975-D4	1975年	グアッシュ、紙	79.0,56.0	作家
112 D5	1975年	グアッシュ、紙	78.5,55.5	奈良県立美術館
113 1980-DB1	1980年	グアッシュ、紙	78.4,56.0	作家
114 D1	1980年	グアッシュ、紙	78.5,55.5	奈良県立美術館
115 1983-21	1983年	コンテ、紙	100.0,70.4	作家
116 Mar-85	1985年	合成樹脂エナメル塗料、紙	109.6,79.0	作家
117 May-85	1985年	グアッシュ、水性インク、紙	79.0,54.8	作家
118 1985-13	1985年	鉛筆、水性インク、グアッシュ、紙	80.6,58.8	作家
119 1986-D2	1986年	合成樹脂エナメル塗料、紙	109.6,79.0	作家
【素描(習作)等】				
120 無題(《ベル》の習作)	1955年	鉛筆、インク、紙	29.5,22.1	個人
121 無題(《ベル》の習作)	1955年	インク、紙	39.7,27.2	個人
122 無題(《ベル》の習作)	1955年	鉛筆、紙	直径40.0	個人
123 無題(《ベル》の習作)	1955年	鉛筆、紙	25.4,36.0	個人
124 ベル設計図	1955年	インク、紙	23.4,23.4	東京都現代美術館
125 ノッチ	1955年	木、銅板	直径39.6	東京都現代美術館
126 手帖	1955-56年	インク、色鉛筆、鉛筆、紙	10.9,6.3	作家
127 広告塔習作A	1956年頃	鉛筆、色鉛筆、紙	26.0,87.6	作家
128 広告塔習作B	1956年頃	鉛筆、色鉛筆、紙	26.0,71.1	作家
129 広告塔習作C	1956年頃	水性インク、色鉛筆、紙	19.2,27.5	作家
130 「舞台服」習作	1956年頃	水性インク、紙	25.0,36.0	作家
131 「舞台服」習作	1956年頃	水性インク、水彩、紙	29.5,22.0	作家
132 「舞台服」習作	1956年頃	水性インク、水彩、色鉛筆、紙	29.5,22.0	作家
133 「舞台服」習作	1956年頃	水性インク、色鉛筆、紙	6.2,11.0	作家
134 「舞台服」習作	1956年頃	水彩、紙	43.8,20.8	作家
135 「舞台服」習作	1956年頃	水彩、水性インク、紙	30.4,28.7	作家
136 「舞台服」習作	1956年頃	水性インク、紙	5.6,25.4	作家
137 Atsuko Tanaka 1 1956-1963	1956-63年	クレヨン、色鉛筆、鉛筆、水性インク、油性インク、墨、紙	30.2,23.0	作家
138 1965-P1	1965年	鉛筆、紙	31.6,38.8	作家
139 1965-P2	1965年	鉛筆、紙	32.0,39.8	作家
140 「86G」習作	1980年	鉛筆、紙	25.7,39.6	作家
141 1984-P6習作	1984年	鉛筆、紙	23.0,35.2	作家
142 「93G」習作	1993年	鉛筆、紙	22.8,38.8	作家

作品名	制作年	材質	寸法 (タテ×ヨコ, cm)	所蔵
143 「'99J」習作	1999年	クレヨン、紙	50.0,35.0	作家
144 「2000D」習作	2000年	色鉛筆、紙	20.0,14.0	作家
145 「2000G」下絵	2000年	色鉛筆	16.6,13.4	作家

【再制作】

146 作品	1955年(オリジナル)	人絹	1,000, 1,000	
147 作品(ベル)	1955年(オリジナル)	ベル、コード、スイッチ、操作盤	ベル：20個、コード：4000	
148 舞台服	1956年(オリジナル)	管球、合成樹脂エナメル塗料、コード、合板、ビニールシート、操作盤	436,364 (×7)	
149 作品	1956年(オリジナル)	電球、コード、合板、ビニールシート、操作盤	614,509	

【映像資料】

150 野外具体美術展	1956年	8mm、モノクローム、カラー (VHSに変換)	1分14秒	芦屋市立美術館
151 第2回具体美術展	1956年	8mm、モノクローム(VHSに変換)	20秒	芦屋市立美術館
152 「舞台服」リハーサル	1956年	8mm、モノクローム(VHSに変換)	2分43秒	芦屋市立美術館
153 舞台を使用する美術	1957年	8mm、モノクローム、カラー(VHSに変換)	4分13秒	芦屋市立美術館
154 グタイピナコテカ開館披露パーティー	1962年	8mm、モノクローム(VHSに変換)	38秒	芦屋市立美術館
155 Round on Sand (撮影・編集：福澤博)	1968年	16mm、カラー(VHSに変換)	9分50秒	個人蔵
156 田中敦子 もう一つの具体(監督：岡部あおみ、撮影・編集：岸本康)	1998年	VHS、カラー	45分	ウーファーアートドキュメンタリー制作

連続 アート・フォーラム

「田中敦子」展から選り出された4つのテーマで計4回、各回おひとりずつ講師をお迎えし、アート・フォーラムを開催します。このフォーラムは現代美術をめぐるさまざまな話題について、講師と参加者との積極的な議論し、交流する「開かれた場」を目指しています。

再制作作品の展示 および 公開インスタレーション

1950年代半ばに、具体美術協会関連の展覧会に出品された作品を本展にあわせて再制作し、期間限定で展示。なお、(1)、(3)については、インスタレーションの模様を公開します。

連続 アート・フォーラム

田中敦子 関連イベント・ガイド

未知の美の探求
1954・2000

7/28 sat. 9/9 sun.

再制作作品の展示 および 公開インスタレーション

子どもワークショップ

「ピピッと感じて、じっくり描こう」

7月31日(水)～8月5日(日)

見る、感じる。遊ぶ、描く。作る。田中敦子ワールドを全身で体感する、小学生対象のワークショップです。

ギャラリー・ツアー

午前9時30分～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

5月から9月までの毎週土曜日は午後7時30分開館
(入館は午後7時まで)

子どもワークショップ

本展のために結成された、有志のガイドさんたちによる展覧会案内。日によって違うガイドさんのグループが、田中敦子の未知の美の世界へみなさんをお連れします。

連続 アート・フォーラム

第1回

8月5日(日)
14:00～16:00
講座(無料)

「日本の現代美術 東と西」

中津川浩章

1958年浜田市生まれ。和光大学文学部芸術学専攻卒業。東京・関西の両方で縦横無尽な活動続ける京産の美術家。個展多数。2001年「NCAF展」(名古屋)、「人・場・アート展」(仙台)、「思考する場」ギャラリーK(東京)など。1999年には豊城のトルコを遊訪するため、現地でライブペインティングを行なう。エッセルアートにも深い関心を持っている。日本の美術に東と西の違い(貫や精神など)はあるのか?今の美術の動向は?現代美術ほどして多様な文化と対峙し続ける。東と西の両方で活動してきた経験を生かして、元来「コミュニケーション」関係性をキーワードにお話ししていきます。

子どもワークショップ

「大人の美術のはなし。ワークショップのココロみ」

8月9日(日)
14:00～15:30
講座(無料)

「田中敦子・自作を語る」

話し手/田中敦子氏
聞き手/南 英幸(当館学芸員)

エッセルアートに満ち溢れた田中敦子氏の作品世界。アーティストに自身をお返し、インタビュー形式で、その創造の背景を知ります。(趣向「田中敦子」よりよく知るためのガイド)もお話ください。

子どもワークショップ

「多様な色の意味について」

8月28日(日)
14:00～16:30
講座(無料)

「大人の美術のはなし。ワークショップのココロみ」

8月28日(日)
14:00～16:30
講座(無料)

展覧会企画のほか、「へのへのももじり」「さかさか」「むきゅん」といった「美術のはなし」などの各種ワークショップを企画し、作家と観客を結びながら、演習YMOのアート・プロジェクトとして「アール・ムーム」のワークショップを開催する。89年コンピュータによるグラフィック作品の制作開始。小販美術ポスターを発表。90年宮内庁より大賞のための画家に選定され絵画をおさめる。最近の代表作に、平安遷都1200年記念「伝統と新生フォーラム」ポスターシリーズ、97年「日本文化財」アラインの世紀「展覧会」デザインにおける色彩の意味、現代美術と他ジャンルとのセッションなどについて、幅広くお話ししていきます。

子どもワークショップ

「ピピッと感じて、じっくり描こう」

7月31日(水)～8月5日(日)

見る、感じる。遊ぶ、描く。作る。田中敦子ワールドを全身で体感する、小学生対象のワークショップです。

子どもワークショップ

「大人の美術のはなし。ワークショップのココロみ」

8月9日(日)
14:00～15:30
講座(無料)

展覧会企画のほか、「へのへのももじり」「さかさか」「むきゅん」といった「美術のはなし」などの各種ワークショップを企画し、作家と観客を結びながら、演習YMOのアート・プロジェクトとして「アール・ムーム」のワークショップを開催する。89年コンピュータによるグラフィック作品の制作開始。小販美術ポスターを発表。90年宮内庁より大賞のための画家に選定され絵画をおさめる。最近の代表作に、平安遷都1200年記念「伝統と新生フォーラム」ポスターシリーズ、97年「日本文化財」アラインの世紀「展覧会」デザインにおける色彩の意味、現代美術と他ジャンルとのセッションなどについて、幅広くお話ししていきます。

子どもワークショップ

「大人の美術のはなし。ワークショップのココロみ」

8月28日(日)
14:00～16:30
講座(無料)

展覧会企画のほか、「へのへのももじり」「さかさか」「むきゅん」といった「美術のはなし」などの各種ワークショップを企画し、作家と観客を結びながら、演習YMOのアート・プロジェクトとして「アール・ムーム」のワークショップを開催する。89年コンピュータによるグラフィック作品の制作開始。小販美術ポスターを発表。90年宮内庁より大賞のための画家に選定され絵画をおさめる。最近の代表作に、平安遷都1200年記念「伝統と新生フォーラム」ポスターシリーズ、97年「日本文化財」アラインの世紀「展覧会」デザインにおける色彩の意味、現代美術と他ジャンルとのセッションなどについて、幅広くお話ししていきます。

関連イベント・ガイド